

令和3年度渡島支部活動報告

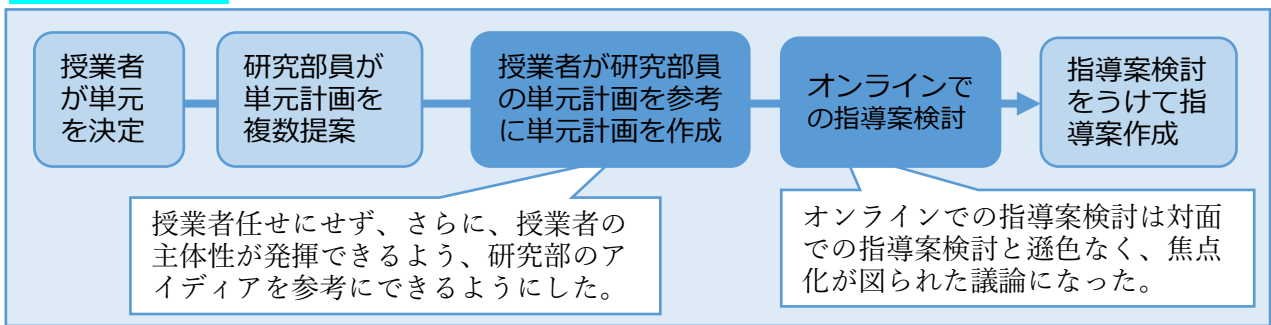
1. コロナ禍の活動報告の目的

渡島体育研究会では、研究主題「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成」を掲げ、子供が「運動の楽しさに触れた」・「がんばれた」・「共に成長した」と感じることができるような体育授業を目指して取り組んでいる。

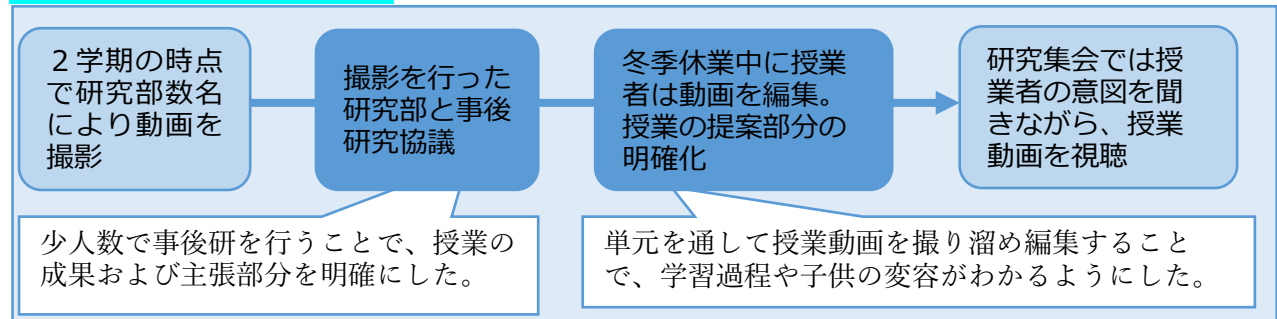
1月下旬に第17回渡島体育研究集会を予定していたが、新型コロナ感染の拡大が全国的に広がったため、急遽オンラインでの開催に変更した。コロナ禍の中で、渡島支部が進めてきた研究実践について報告する。

2. コロナ禍における研究推進

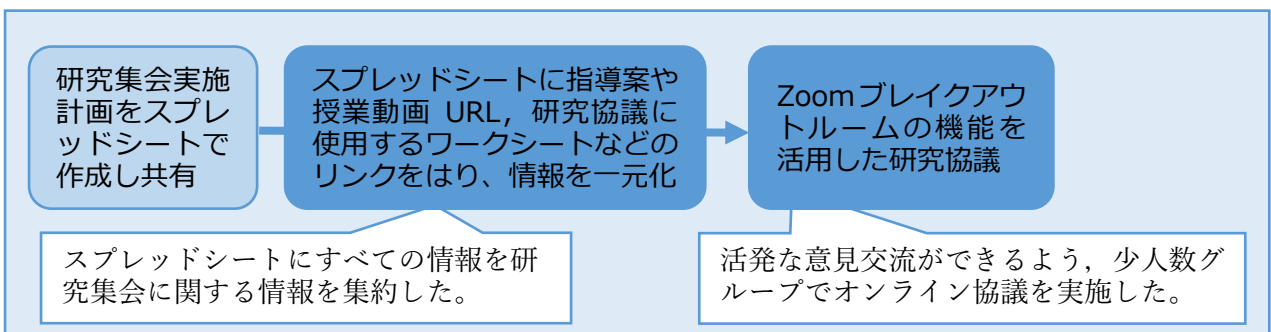
〔①授業づくり〕



〔②動画による授業研究方式〕



〔③オンライン研究協議〕



〔④授業研究〕

木古内小学校：橋口 幸彦 教諭 単元：「ポートボール」（ボール運動 ゴール型）



【目指す子供像に迫る手立て】

- 十分な運動量を確保したゲーム中心の学習展開
- 必ずプレイに関われるよう、チームの人数を工夫
- パスをつないでシュートを決めるという流れの重視
- 個人のめあてを持ちやすくするために、よいプレイやふり返りを共有
- 磨くべき技能をパス・シュート・スペースへ走りこむの3つに焦点化
- フェアプレイを重視した、友達のよいところに目を向けさせる指導
- 助け合いながら取り組むことができるようなチーム編成

松前中学校：山吹 遼 教諭 単元：「バスケットボール」（球技 ゴール型）



【目指す子供像に迫る手立て】

- 局面や機能的特性を理解したゲーム中心の授業展開
- 身につけた技術を使って意図的に得点できるようなグルーピングやルールの工夫
- 課題を見出し、解決に向けてどのようなプレイができたかをふり返る活動から得られた成長の価値づけとフィードバック
- グループ活動を活性化し、チーム内技能を高めるための動画や作戦アプリの活用

〔⑤今年度の成果及び次の一歩〕

協議内容を分析し、成果および次年度の研究の方向性を整理した。

令和3年度 第17回渡島体育研究集会授業研究 成果及び次の一歩

	楽しさに触れた	がんばれた	共に成長した
成果 & 次の 一歩	<p>○十分な運動時間を確保しよう</p> <p>オリエンテーションにより学習の見通しをもたせ、自分達で学習を進めることを積み重ねることで、運動時間を確保し、運動の楽しさに触れる機会を増やす。</p>	<p>○「できそう!やってみたい!」運動に取り組ませよう!</p> <p>今もっている力で楽しめる魅力的な運動を取り上げ、何をどのように取り組むかを焦点化する。</p>	<p>○個人の学習成果を集団に広めよう。</p> <p>子供が見つけた動きのこつや課題解決の方法を価値付けし、集団に還元することで、自分の学習成果が他者の学習に生かされる経験を積み重ねる。個人の学習成果の共有が効率的・効果的に行えるよう一人一台端末を活用する。</p>
	<p>○子供の実態からどのような運動の楽しさに触れさせるか明確にしよう!</p> <p>子供の実態から競争の楽しさ、感覚の楽しさ、達成の楽しさなど、どのような楽しさに触れさせたいか明らかにする。(複合的な楽しさもある。)</p>	<p>○学習成果を振り返る方法を充実させよう!</p> <p>動画を撮影して見返す、学習カードに書く、発問から思考させる、一人一台端末を活用するなどの振り返りをもとに成果や課題を実感させ、学習を自己調整できるようにする。</p>	<p>○見る・支える場面をつくろう!</p> <p>動きを見合う、よかった動きを伝え合う、互いの運動を援助する、応援する、運営・準備の役割を果たすなどの協力したり、高め合ったりする活動を設定する。</p>
	<p>○「モノ・コト・ヒト」の視点で学習活動を工夫しよう!</p> <p>運動の楽しさに最大限触れるための用具、ルール、活動内容、構成メンバーを工夫する。</p>	<p>○選択できる場面をつくろう!</p> <p>思考、判断力を育み、主体的な学習の第一歩となるよう、動き、作戦、ポジション、練習方法、学習方法などを自己選択できる場を設定する。</p>	
<p>運動をみんなで楽しむ合言葉 「フェアプレイ」を浸透させよう ～フェアプレイの要素「①全力プレイ②ルール順守③相手尊重④安全第一」～</p>			